

社会

出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大問を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面からとらえており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題している内容は必須事項ですので、教科書や資料集などで基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

2023 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の順で出題しました。地理分野、歴史分野、公民分野ともに出題形式には大きな変化はなく、問い方や考え方は毎年できるだけ同じ形式になるよう出題を心がけています。今年度の問題傾向と誤答例などについて、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①日本地理

日本地理は、比較的解答しやすい問題であったように思います。そのため、正答率も全体的に高くよくできていました。正答率が低かった問題としては、まず問1の雨温図の問題です。冬の平均気温が0度を下回っていることからアと判断しなければならない問題でした。雨温図に関しては、日本地理・世界地理に関わらず毎年出題されることが多いので学習しておくといいでしょう。問3の「近郊農業」と答える問題ですが、「郊」の漢字が「効」と間違えている受験生が目立ちました。問5は、最近よく出題される正誤の組み合わせを選ぶ問題です。今後この形式の問題は出題する予定なので、学習する際はしっかりと知識を身に付けておいてください。問7の都道府県名と県庁所在地名の一致しないものをすべて選ぶ問題です。基本的な問題なので、是非完答してほしい問題でした。問9は、地球1周が約40000kmという知識が必要です。緯度が約1度離れているということは、「 $40000 \text{ km} \div 360^\circ = 111.1\dots$ 」となります。一番近いアの120kmを選ぶことが出来ます。

②世界地理

出題傾向としては、各国の地理的な特徴を[表]から読み取り、その国の場所、更にはその国の様子を一致させる問題でした。解き方としては、まず[説明文]を読んで4つの国を導き、地図を見てその国を結びつけた後、[表]を読み取り各国の特色の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の国を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後も、1つのテーマ [農業・資源(林水産・エネルギー・鉱物)・工業製品など]について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料などと照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。今回の問題では、特に(う)(え)の正答率が低かったです。まず(あ)の示す国は、小麦の生産量が世界第2位のインドを上回っていることから世界第1位である中国となります。(い)の示す国は、カカオ豆の生産量が多いことから、ガーナとなります。(う)(え)は、カナダとオランダのどちらかを選ぶこととなりますが、小麦の生産量・石油の産出量を比べた時に(う)が(え)を上回っていることから、(う)がカナダであると判断することが出来ます。問2は、毎年出題されている時差を求める問題でした。時差に関する問題は、毎年出題されますので、解けるようにしておきましょう。

③歴史分野

今年度は、古代から現代の歴史までをA～Hの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や重要用語であり、比較的よく出来ていました。しかし、記述問題では漢字の間違いが目立ちました。誤答例として、問1(4)の「源氏物語」が「源子物語」になっている。(5)の「雪舟」の「舟」の字の書き間違いが目立ちました。また最も多い間違いが、(6)の「文明開化」を答える問題でした。「開化」が「開花」になっている間違いでした。問4の「墾田永年私財法」の「墾」の漢字間違いも多かったです。その他、正答率が低かった問題としては、問5の「藤原氏」に関する出題、問7の「地頭」を答える問題、問8の「禅の影響を受けた建造物」に関する出題、問13の「出来事を古い順に並び替え」の問題が挙げられます。例年ですが文化史・世界史・近現代史を苦手とする受験生が多いように感じます。今後もこういった受験生が苦手とする分野の出題はありますので、古代から現代までをまんべんなく学習するように心掛けてください。また、高得点をとるためには、日本史・世界史の各時代の内容整理(政治史・文化史)とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習を進めておきましょう。今後もこの形式の出題は続きますので、問題をしっかり読むように心掛けましょう。

④公民分野

今年度も、新聞の社説からの出題でした。全般的にはよく出来ていましたが、問4・問7の正答率が低かったです。問10は、文章をしっかりと読まなければ解けない問題となっています。憲法や三権(国会・内閣・裁判所)について基本的な事項をしっかりと押さえておく必要があります。また、経済・金融・社会保障などの分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

対策と アドバイス

今年度の入試は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の大問の出題でした。この出題形式は来年度も継続する予定です。多少出題傾向は変化するかもしれませんが、教科書や資料集などを中心とした出題に変化はありません。今後も基本問題を中心に
出題していきますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうか
に重点をおいた出題を常に心がけています。まず①日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておきましょう。②世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておきましょう。また、時差の計算はできるようになっておきましょう。地理分野では、統計・グラフ等は必ずチェックしておいてください。③歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。④公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などにも興味をもつことが重要です。どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかりと整理し理解を深めれば、高得点をとる事ができるでしょう。